

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

記録に保育者の思いを加え、読み取る／学校法人椎野学園 米沢中央幼稚園

保育の中の印象的な出来事を、エピソード記録にしてみませんか？その記録に、保育者の対応や思いを加えると記録の内容が深まります。

ここで紹介する事例は、空き地にできた水溜りにオタマジャクシを見つけた驚き、オタマジャクシを上手く捕る方法を考えて夢中になっている姿が分かります。一見、個々に自分のオタマジャクシを捕まえる個別の体験に見える姿ですが、記録により情報交換や認め合いなど、「科学する心」が把握できるやりとりを見取っています。



○ 事例にしよう1 「オタマジャクシがいっぱいいるぞ！」／5歳児

4歳児の保育者から園近くの空き地に大きな水溜まりがあり、そこに沢山のオタマジャクシがいることを聞く。様々な生き物や虫に興味をもっている時期に実体験できる良い機会だと思い、早速5歳児と出かける。

子どもの姿 Hちゃん、Sちゃんたちは小さなスコップとバケツ、園庭の川でアメンボ捕りも経験しているNちゃんとRちゃんは自分で考えた道具、Nちゃんはままごとのおたま、Rちゃんは網を持っている。

保育者の対応(思い) 子どもたちの期待感が伝わってくる。早くオタマジャクシを見せてあげたい。子どもたちはどんな表情をするだろうか。私も楽しみだ。

子どもの姿 空き地に着くと水溜まりにいるたくさんのオタマジャクシを見付ける。子どもたちは裸足になり身をかがめ、手で捕まえようとする。一人ひとりが捕まえようと一生懸命だ。

保育者の対応(思い) 子どもたちが目を輝かせている。オタマジャクシの様子を見て、一人ひとりいろいろな事を感じて欲しい。



子どもの姿 みんなが裸足で水溜まりに入り、オタマジャクシを捕る。

保育者の対応(思い) 保育者も裸足になる。子どもたちと一緒にオタマジャクシの動きを見ながら、スコップで捕まえようとする。

子どもの姿 水溜まりに入ったことで水が濁り、オタマジャクシが見えなくなる。Sちゃんが「みんな、ジャバジャバ動かないで、オタマジャクシが見えなくなるぞ」と言う。Sちゃんに言われ、みんな静かに歩き始める。

保育者の対応(思い) 裸足になり入ったことで水が濁ったことも良い体験だ。その中で子どもたちは考え工夫している。Sちゃんはいいことに気付いてくれた。

子どもの姿 Hちゃんは指でつまむようにして、捕まえようとする。すると「おっ、やったあ！つかまえたぞ！」と捕まえることができ、すぐにバケツに入れる。「どれ、見せて」何人かが集まってくる。

保育者の対応(思い) このまま子どもたちの様子を見守っていくようにする。

子どもの姿 Rちゃん、Sちゃんも頑張って捕まえようと集中している。「あんまり奥に行かない方がいいよ」と言うHちゃん、Rちゃんは静かに歩きながらおたまやスコップを近づけている。



保育者の対応(思い) R児とS児は、H児が捕まえたことが刺激になっている。H児は奥に行かず手前で捕った方がいいことに気付いているようだ。

子どもの姿 Rちゃん「僕も捕まえたよ」と言い、嬉しそうな表情でHちゃんに見せている。Hちゃん「やったね」と、一緒に喜ぶ。何回も逃げられるが、繰り返し挑戦している。

保育者の対応(思い) 自然の中での体験は、子どもたちの世界を広げている。自分たちで考え何回も挑戦している姿に逞しさを感じる。Rちゃんが捕まえたことを子どもたちと一緒に喜ぶ。

✦ 考察

今まで、図鑑や絵本でしか見たことがなかったオタマジャクシを実際に見ることができ、自分たちの手で捕まえることができた体験は何事にも変えがたいものとなった。素手や、おたま、スコップ等いろいろな道具を使ったが、なかなか捕まえられなかったことも良い経験となった。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」